震災・復興10年 進もう！次の東北へ
記者発表資料

令和４年４月１８日
東北地方整備局

東北地方整備局関係職員3名が
令和4年度文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞を受賞

文部科学省では、優れた創意工夫により職域における技術の改善向上に貢献した者を創意工夫功労者として表彰しています。
今回は、東北地方整備局から「作業効率向上のための調査ボーリング検尺の改善」を行った3名の関係職員が受賞しました。

〇創意工夫の内容（別添資料参照）

作業効率向上のための調査ボーリング検尺の改善

ボーリング掘進終了後、ボーリング延長を確認するための検尺は、従来監督職員の現地立会いを原則としていたため、その移動の間、現場作業は待機による作業中断を余儀なくされていました。今回の考案は、「ビデオ検尺」を採用することにより、作業効率の向上・業務マネジメントの拡充を図ったものです。
今回の改善にあたり、「ビデオ検尺」の標準化を進めるため、「ビデオ検尺手順書」を作成し、客観的に従来の現地立会いと同等の確認が図れるよう工夫したものです。

＜改善点＞
①「ビデオ検尺」の採用による作業効率の向上
②「ビデオ検尺手順書」の作成による、ビデオ検尺の標準化の実現

〇受賞者3名（鳴瀬川総合開発工事事務所在籍時の業績）
岩　渕　直　喜　鳴子ダム管理所 専門官
中　正　裕　史　東北技術事務所 品質確保課 品質確保係長
鈴　木　崇　之　道路部 道路計画第一課 計画第二係長

〇受賞者への伝達及び取材方法について
新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、伝達は当局関係者のみで実施します。受賞内容の取材につきましては、電話等によりお願いいたします。

〈発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会〉

問い合わせ先　国土交通省　東北地方整備局　℡022-225-2171（代表）
技術関係：企画部企画課長　神宮　正一（内 3151）
技術関係以外：総務部人事課長　佐藤　正亮（内 2251）

作業効率向上のための調査ボーリング検尺の改善（概要）

①創意工夫の内容

（１） 背景・着目点

大規模事業となるダム建設においては、ダム施設などの構造物や水没する道路の付替工事のための設計・工事を進める上で地質状況の把握が重要であり、その手段として数多くの調査ボーリングを実施することとなる。

調査ボーリング作業を規定した「地質・土質調査業務共通仕様書」においては、ボーリング掘進終了後、ボーリング延長を確認するための検尺は監督職員の立会が原則として定められている。

当該事業における調査箇所は、監督職員が常駐する工事事務所から約３２㎞の位置にあり、調査ボーリング終了後の報告から現地立会いまでの時間は、現場内での移動も含め片道約１～２時間程度要する状況であり、その移動の間、現場作業は待機による作業中断を余儀なくされる。

移動に伴う時間を短縮することが、調査ボーリング作業の効率向上が図れると共に、監督職員における業務効率の拡充が期待できる。

（２） 検尺方法の改善点

従来の監督職員の現地立会いが原則とした検尺について、「ビデオ検尺」を採用することにより、移動時間ゼロ・待機時間ゼロを目指した。

「ビデオ検尺」とは、調査ボーリング終了後に行う検尺をＷｅｂ会議システム等によるリアルタイム通信、及びビデオ録画撮影を活用し、監督職員が事務所机上において遠隔配信や撮影された動画や写真等により検尺内容を確認する方法である。

今回の改善にあたっては、「ビデオ検尺」の標準化を進めるため、「ビデオ検尺手順書」を作成し、客観的に従来の現地立会いと同等の確認が図れるよう工夫した。



②創意工夫の実績（ビデオ検尺の実施数量：７１孔のべ９１３ｍ）

・調査ボーリング作業の効率向上効果量

→待機による作業中断を約１１０時間（７１孔×１．５時間／孔）が回避される。

→待機回避量はボーリング作業約６３ｍ（１１０時間÷７時間／日×４ｍ／日）に相当する。

・監督職員における業務マネジメントの拡充量

→立ち会いに伴う移動時間を約２１０時間（７１孔×３時間／往復）が回避される。

→移動回避量は業務マネジメントの約１．３ヶ月（２１０時間÷８時間）に相当する。

・Ｃｏ２削減量→1,050kg-CO2 相当（７１回×６４km／往復×0.232kg-CO2/km（小型換算））

・今回実施した創意工夫を参考に東北地方整備局として令和３年度からビデオ検尺の標準化に拡大している。